

2015年7月1日

プレスリリース

笠間市笠間 978 - 4
公益財団法人日動美術財団
笠間日動美術館

鴨居玲の部屋

REY CAMOY MEMORIAL ROOM

没後 30 年の本年 7 月 1 日、笠間日動美術館企画展示館にオープン



鴨居玲 神戸のアトリエにて愛犬チータとともに

撮影：富山栄美子

拝啓

時下、皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当館では、コレクションの柱のひとつとして、自画像の画家と称される鴨居玲の作品の収集に力を注いでまいりました。現在では「勲章」や「サイコロ」、「私の村の酔っ払い」などの代表作を含め、39点の作品を収蔵しております。この度は、没後 30 年を迎えるにあたり、鴨居玲の画業を永遠に顕彰するため「鴨居玲の部屋」を開設する運びとなりました。

この部屋では、没後アトリエに残されていた未完の自画像やデッサン帳、キリストの「最後の晩餐」の構想のため晩年に手に入れた大型のテーブルをはじめ、大切に使用していた英国製のアンティーク家具、身の回りに置いていた愛用品など、初公開の品々を展示いたします。作品完成に至るまでの過程や画家の心の軌跡をたどり、鴨居玲の魅力をあらためて感じていただければ幸いです。

つきましては、ご取材・ご紹介などのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 開設日時

2015年7月1日午後2時（2時よりオープニングセレモニー）

2. 部屋の大きさ

100平方メートル余り

3. 展示資料

- ・鴨居の没後、アトリエに残されていた自画像、人物デッサンなど、未完成の作品を中心に、素描・油彩など約90点
- ・実際に使用していた英国製アンティーク家具18点
- ・いつも身の回りにおいていた愛用品、サングラス、指輪、万年筆、鉛筆、鞆、蜀台、灰皿など多数

4. 鴨居玲 略歴

1928年、金沢に生まれた鴨居玲は、金沢美術工芸専門学校（現在の金沢美術工芸大学）で学び、洋画家宮本三郎に師事します。1959年に初渡欧。1965年、単身ブラジルに渡り、パリ、ローマにそれぞれ1年近く滞在し帰国。1969年、第4回昭和会展に初出品で優秀賞を受賞。同年安井賞展で安井賞を受賞するなど輝かしい成績を残します。1971年、スペインに渡りマドリードに半年ほど滞在し、「ドン・キホーテ」で知られるラ・マンチャ地方のバルデペーニャスに居を移し、村人たちと気さくに触れ合いました。酔っぱらい、おばあさん、廃兵、教会など、この時期に多くのモチーフを得ました。1974年、パリにアトリエを持ち、パリ、ニューヨークそして日本で多くの個展が開催されました。1977年、パリを後にして帰国、神戸に居を構えます。個展や画集出版など順調であった反面、環境の違いから制作には焦燥感を抱くようになりました。やがて本質的な自画像の制作に取り組み、「1982年 私」「勲章」「出を待つ」など名作を生み出しましたが、自身の身体を痛めつける結果となり、1985年9月急逝しました。

以上